

周年事業について考える —— 転換と発信の契機に



とべじゅんいち
戸部 順一
成城大学学長

かわいしんいち
川井 伸一
愛知大学理事長、
学長

周年事業の一環として、さまざまな改革や
キャンパス整備を進める大学も

兼高 1948年の新制大学の発足から60年以上が経過し、100周年を超える大学も散見されるようになってきました。ちなみに、東京大学は創立140周年、私立大学では龍谷大学が370余年、私が所属しております日本大学は2019年に創立130周年を迎えます。

こうしたなかで、周年事業の一環として新キャンパスの開設や整備、学部学科の新設や再編、中・長期計画の策定など、周年事業を機に変革を進める大学も少なくありません。しかし、周年事業の実施には多額の事業費が必要になり、寄附を募るなどの募金事業を展開しなければならないという



司会

かねたかまさ お
兼高聖雄日本大学芸術学部
教授、総合政策セ
ンター広報・情報
部門会議(大学時
報)委員あんどう ゆきみ
安藤由紀美
東京女子大学
大学運営部長

2017年12月6日 日本私立大学連盟会議室にて

課題もあります。

本日の座談会では、既に周年事業を実施した、またはこれから予定している大学にお集まりいただきました。2016年に創立70周年を迎えた愛知大学の川井理事・学長。2017年に創立100周年を迎えた成城学園からは、成城大学の戸部学長。そして2018年に創立100周年ということでご準備をなさっている東京女子大学の安藤部長です。

では、各大学の周年事業の目的や成果、課題などをご紹介いただきながら、周年事業の意義や今後の展望などを考えてみたいと思います。

周年事業のメインは、教育環境の整備や学生支援、記念シンポジウムなど

川井 愛知大学は1946年創立であり、10年ごとに周年事業を実施してきました。この70周年に当たっては、まず記念事業の運営委員会を1年くらい前にスタートさせ、いろいろな企画を検討いたしました。運営委員会の委員長は私が務め、メンバーはほぼ大学の執行部という構成です。これとは

別に、同窓会や後援会の代表者も参加した募金委員会を組織しています。この二つの組織が、70周年事業の準備を行う主な組織ということになります。

具体的な周年事業の規模は募金と密接な関係がありますが、基本的には募金に基づいた事業展開を考えました。

周年事業の内容としては、名古屋・豊橋・車道と三つある本学キャンパスそれぞれの教育環境の整備がメインですが、特に、5年前に新設した名古屋駅近くの名古屋キャンパスの第2期工事支援が一番の課題でした。

次に、学生の課外活動や就職活動の支援および奨学金といった学生支援を展開すること。三つ目としては、70周年を記念するシンポジウムです。大学のこれまでの歴史を振り返りつつ未来を展望するという考えの下に、一つは大学の歴史的由来について前身の東亜同文書院からの接続の視点から考える、そして一つは名古屋キャンパスが名古屋駅近くの都心部にあるので、そうした地域において大学はどのような役割を果たすべきかといったテーマを設定して行い

ました。

そのほかには、卒業生に日本画を代表する画家平松礼二氏がおられますので、その展示会を開催しました。広報関係では記念誌を発行したり、70周年のマークを制作して刊行物やウェブサイトで使用し、PRしました。

20年前の50周年の時にはかなり盛大に行いましたが、60周年は比較的簡素でしたので、今回の70周年もそれを引き継いだというのが全体的なイメージです。

ただ、70周年募金活動は比較的長期にわたっており、今回の場合は2008年には始めていました。

兼高 事業の元になる募金事業を、10周年ごとに行ってきたということでしょうか。

川井 そうですね、両方をリンクさせるような形です。

学生の関わり方や地域との連携も 周年事業のポイントの一つ

兼高 学生の課外活動や就職活動の支援を周年事業の一環として行うというのは、どういった形ですか。

川井 例えば課外活動の支援では、名古屋キャンパスは都心部の比較的狭い敷地に立地しているため、グラウンドがありません。そこで、校外にグラウンドを確保するといった設備の充実を図りました。

兼高 学生の要望などを受けて、70周年を機に実施したというような感じでしょうか。

川井 学生が周年事業にどう関わるかが、一つの課題だと考えています。当然ながら、それを企画の中に組み込んでおり、一つは記念の講演会・シンポジウムに学生が参加すること。もう一つは、名古屋キャンパスのある「ささしまライブ」という再開発エリアのまちびらきイベントです。ここには、本学のほかにJICA中部国際センターや中京テレビ、高層オフィスビル、ホテル、シネコンなどもあります。

名古屋キャンパスの第2期工事が2017年3月に竣工し、ほぼ同時に「ささしまライブ」の他の建物も完成したので、そのまち開きイベントと70周年事業を関連付けて学生の企画による各種の催し物を企画・実施しました。学生に対しては、周年事業の資金の中から支援を行いました。

兼高 地元に対して開かれた大学という、地域連携としての情報発信の意味合いもあつたのでしょうか。

川井 当然、それは考えていました。第2期工事竣工の記念式典があり、70周年と併せて、多くの来賓の方々をお迎えして挙行しました。先ほどのシンポジウムなどは一般の方々にもご参加いただき、また、まち開きのイベントはJICAや中京テレビ等とタイアップして行いました。地域のイベントと関連付けるといふ点で、新しい特徴だと思えます。

100周年を機に、次の1世紀に マッチするような理念を提示

兼高 戸部先生、成城学園が100周年と
うかがいましたが、これは法人のほうですね。

戸部 はい、成城大学は1950年に新制
大学としてスタートしましたので、201
8年は68年目となります。その設置母体で
ある成城学園は澤柳政太郎が1917年に
小学校を創立したときに始まります。現在、
幼稚園から大学・大学院までの各校で構成
されるまでになった学園は全学をあげてこ

れを祝おうという企画になったものです。

先の90周年が終わって3年後の2010
年には、来る100周年に向けて話し合う
ための「成城学園第2世紀プラン基本構想
検討委員会」が発足しています。ここで、
理事会を中心にいろいろな検討が行われま
した。メンバーは15人で、学園が設置して
いる各学校の園長、校長、大学長、大学各
学部長、さらに、理事と評議員から選任さ
れた方々で構成されていきました。1年間に
11回の会議が開かれ、そこで建学の精神を
もとに「第2世紀ビジョン」が策定され、
また100周年事業の大枠が決まりました。

翌2011年の夏にはプロジェクトチー
ムが作られ、より具体的な計画が検討され
ました。100周年事業の中心に何を置く
かを検討し、やはり教育の改革であろうと
いうことになり、次の1世紀を視野に入れ
た新たな理念を構築しようとなりました。そ
の根本は創立者の理念になるわけですが、
澤柳政太郎は膨大な著作を残しているもの
の、実は学園創立の理念を明確な言葉では
語っていなかったのです。そこで、残され
た記録を確認し、これからの1世紀にマッ

チするような理念を提示するという作業に
取りかかりました。成城学園として、幼稚
園から大学・大学院までの一貫教育に対す
る新たな理念を具現化することが100周
年の眼目とされたのです。

先ほど川井先生からお話がありましたよ
うに、成城学園でも100周年を目指した
さまざまな活動の中で「未来募金」という
名称で募金活動を行い、いままも継続中です。
100周年の中心が教育の改革だという
ことで、教育環境の整備として中高一貫校
の新校舎を建てました。さらに、2017
年12月には初等学校の新校舎建設が始まり
ました。大学の教育環境整備としては、既
存の建物のリノベーションを継続中です。
創立者の澤柳が「自学自習」と言ってい
ますが、これを現代風に言うくとアクティ
ブ・ラーニングということになります。こ
のための自習スペースを拡大しているとい
ろです。

100周年記念というタイトルを付けた
講演会やシンポジウムは、大学を中心とし
て、3年ほど前から20回近く、継続して開
催してきました。学生や卒業生、そして地



川井伸一氏

域の方々に自由にご参加いただき、かなり盛況でした。

兼高 大学からの知の発信ですね。

戸部 はい。学部・研究科ごとに立案し、各分野の第一人者を招いてシンポジウムを行いました。知の発信も100周年事業の一つという位置付けなので、講演の記録を冊子にまとめる作業を行っています。

また、1000年史を制作中ですが、これはなかなか大変な作業です。6年くらい前に作業を始めて、内容や書き手を決めて、結局、出来るのはあと4年くらい先なので、ほぼ10年間かけて作ることになりました。20人くらいで編成された編纂委員会が進めています。



戸部順一氏

安藤 私どものところでも1000年史を製作していますが、事実確認のため一つ一つ古い資料にあたるなど、編纂は本当に大変ですね。

**教育改革の三つの柱を策定し
具体的なプログラムを実施**

戸部 理念については、「独立独行の人をつくる」とか「個性尊重の教育」といった言葉が澤柳語録の中にあるので、それをもう一度解釈し直した上で教育改革の三つの柱をつくりました。

語学的教養を通じて国際性を強化する「国際教育」、数学的教養を通じて論理的な思考力を強化する「理数系教育」、そして芸術的

教養を通じて人間性を強化する「情操・教養教育」を提言しています。

例えば国際教育では、幼稚園から高校まで一貫した英語の教育プログラムが既に動き出しています。幼稚園からというのはほかにはあまりないらしいのですが、CAN-DORISTを作ってきめ細かな指導を開始したところ です。

また、大学では2017年に成城国際教育プログラム (SIEP: Seijo International Education Program) を開始しました。留学や海外インターシップなどの目標を設定し、そのための英語力を養うもので、プログラム修了者には認定証を発行し、成績優秀者は、大学の費用で留学できるというシステムです。

理数系教育では、3年前から全学共通教育科目の中にデータサイエンス科目群を開講し、2018年度以降には科目を増やし充実を図ります。そこで培われた理数的素養が、それぞれの学生が専門とする学問領域とリンクして、いままでにない発想を生んでいく、そういった学生を育てようとしています。

初等学校では、2020年にプログラミング教育が始まりますが、成城学園が得意としている情操・教養教育をプログラムイング教育の中でも学べたらと、新しい学びの仕組みを作っている最中です。

兼高 そういった教育改革も、周年事業の一環として行っていくらっしゃるわけですね。
戸部 はい。それに伴って事務組織の一部を教育施設に替えるといった組織改革も行いました。

3本柱の三つ目の情操・教養教育については、大学の教育としては課外活動で具現化しようと、ピア・チューター制度をつくりました。学生が学び合うだけではなく、教え合うことを目指しています。希望する



安藤 由紀美氏

学生は、ピア・チューターとして教えるために30時間の授業講習を受け、2017年の10月から実際に活動を開始しています。

**「挑戦する知性」というコンセプトで
教育の基盤整備事業を推進**

兼高 安藤さんの東京女子大学は、いよいよ創立100周年を迎えたわけですが、いかがでしょうか。

安藤 創立記念日に当たる4月30日に、創立100周年記念式典を予定しています。

本学は1918年の創立以来、基本理念として、「キリスト教主義」「女子高等教育」「リベラルアーツ教育」を掲げ、豊かな教養に基づいた広い視野と高い専門性を身に付



兼高 聖雄氏

けた、自立した女性を育成してきました。それらを土台に、グローバル化・情報化・多様化する現代社会に対応する教育を推進しています。

私たちは、この記念すべき100周年を、本学に委ねられた女子大学としての使命とその役割を再認識する機会と考え、次の100年に向けた新たな道筋を作り、新しい時代にふさわしい新しい大学の姿を構築する時と捉えています。そのためには、「変えてはならないもの」は守り続け、「変えるべきもの」は時代に先駆けて実現していく、強い信念と鋭敏な知性が求められていると思います。

このような考えのもとに、「挑戦する知性」を基本コンセプトとしてを定め、100周年記念事業を進めることとしました。そのための募金は、本学の標語を用いて「VERA募金」と名付け、2014年に募金事業をスタートさせました。その内容は、次のとおりです。

- ① 新奨学金制度 国際交流の活性化、優秀な学生へのサポート。
- ② エンパワーメント・センターの充実 女

性のキャリア構築や学びを生涯にわたってサポート。

③新学寮建設 学生の社会性・国際性の涵養を目的に新寮を建設。

④景観整備 本学のシンボルである歴史的建築物（文化庁登録有形文化財）周囲の植生を整備。

これらを次の100年を支える新たな基盤整備事業として計画しました。

周年事業の組織については、先ほどお二人の先生方からお話がありましたように、本学でも理事長を委員長とする創立100周年記念事業委員会を設置し、その下に、役割に応じた10の小委員会を組織しました。例えば、広報小委員会、記念催事小委員会、100年史編纂小委員会、リベラルアーツ小委員会、募金小委員会などです。

新入試制度や学科・専攻の再編、 海外研修やキャラクター制作まで

安藤 「挑戦する知性」という文言には、変化が激しい社会の中で、グローバルな視点で考え、行動する女性を目指すという、強いメッセージがこめられています。私も卒



業生として、本学にふさわしいキヤッチフレーズだと思っています。周年事業ではありませんが、このキヤッチフレーズを生かして、100周年を機に新しい教学制度をいくつかつくりました。

多面的総合的評価による「知のかけはし入学試験」。これは、初代学長新渡戸稲造が東京帝国大学の入学試験の面接に際し「われ太平洋の橋とならん」とその志を述べた

という逸話から取った言葉を入試の名称としたものです。講義を受講し、講義のノートを作成、それらをもとに小論文やディスカッションを行います。この入試に合格し、希望する学生には「挑戦する知性奨学金」として、学納金と寮経費の全額を4年間、授与します。また、2018年度入学者からの新しい教育プログラムの中でも「挑戦する知性科目」を設けるなど、このキヤッチフレーズは、学内に浸透されています。ちなみに、「挑戦する知性科目」には、女性起業家を育成するための講座も置いています。

さらには、100周年を機に、半年間の英語圏への留学を必修とする国際英語学科を新設しました。国際志向の意欲的な学生の入学を期待しています。

周年事業としてのプログラムでは、リベラルアーツ小委員会が企画した「挑戦する知性プロジェクト」があります。各分野で活躍している卒業生にお話ししていただく学長主催講演会「はばたけ東女生！」や、ニューヨーク国連本部での海外研修を含む演習、タイ北部で山岳少数民族の子どもた

ちが住むメーカー・フアームにおいてボランティア活動を行う「タイ・ワークキャンプ」などです。

あとは、広報小委員会が学生からデザインとアイデアを募集して作った、100周年記念の東京女子大学公式LINEスタンプ「とんじょちゃん」があります。

兼高 「とんじょちゃん」ですか！

安藤 はい。2016年4月から配信しています。学生の募金活動への参加を意図して、スタンプの販売収益の一部は創立100周年記念募金（VERA募金）として大学に寄附される仕組みです。

兼高 周年のマークはおつくりになっても、キャラクターまではなかなかないのではないのでしょうか。

川井 うちもマークはつくりましたが、キャラクターまではありません。

募金のお願いに伺って、 リベラルアーツの重要性を再認識

兼高 女子大学ならではのご苦労、あるいは女子大学だからできたことは、何かございますか。

安藤 事業のひとつであるエンパワメント・センターの充実が女子大学の使命だと思っています。各講座やシンポジウムなどを外部の方にも広く提供し、女性の社会参画を後押ししています。

募金については、女子大ですから、当初は苦労すると思っていました。しかし、卒業生からのご支援は、大変大きいものでした。さらに在学生ご父母、教職員、企業、法人等のご支援で、目標額10億円に対して2017年12月現在、約7億4千万円集まっています。

戸部 卒業生からのご支援については、私どもも色々と働きかけをしているところですよ。

安藤 本学は、募金活動に慣れていなかったもので、企業訪問を始めるにあたり事前に日本私立学校振興・共済事業団にお伺いして、仕組み作りを教えてくださいました。ちょうど政府が、2020年までに女性の管理職を3割まで高めるという目標を掲げたこともあり、本学の目標とする女性のキャリア教育の充実に向けた募金にも、手応えを感じました。

励みになったのは活躍する卒業生の存在です。多くの訪問先企業で、「わたしのところにも御校の卒業生がいて、中心になって動いてくれています」と言って頂けました。

また、お伺いした先で本学の教育理念・教育内容、募金事業などをご説明申し上げると、社員がステップアップするほど、分野別の専門知識というより、リベラルアーツとそれに基づく教養が必要となってくる、経営理念を浸透させる上でも、またグローバル化が進む中で海外の方々とビジネスだけではない人間関係・信頼関係を築く上でも、リベラルアーツが重要だというお話をして頂くこともありました。

兼高 東京女子大学の100周年に向けた新しいビジョンに理解を示してくださる方が多かったわけですね。

安藤 はい。企業にお伺いして、逆に元氣付けられて募金活動ができました。

兼高 自分たちが向かっている道は正しいということでしょうか。

安藤 これまでの歩みが評価され、向かう先についても励まされました。

兼高 周年事業に費用がかかるというのは

どちらも同じで、ご苦労なさったと思いますが。

戸部 校舎の建て替えなどが計画されますと、かなりの金額が必要となります。

安藤 周年事業を推進するために頂いた寄附について、募金報告書で使途を明確にし、事業の成果をお知らせしています。手間をかけ、きちんとご理解頂くことが、ご支援頂いた方の思いにお応えすることであり、さらなるご支援にもつながると思います。

兼高 いろいろお話を伺ってみると、例えば周年事業で卒業生から寄附をいただくには、何か返礼品のようなものがあつたほうが良いといった声も聞かれます。

戸部 成城大学では、御礼の意味も込めて、「全学ホームカミングデー」を行いました。これまで、学部単位では行っていたのですが、全学での実施は初めてでした。成城大学の卒業生だけではなく、成城学園にご縁のあつた方全員にお声がけをしました。

周年事業を機に、変えるべきものは変えるべきものはきちんとして守る

兼高 周年事業はおめでたいことではあり

ますが、誰のためにやるのかということところが意外に難しいような気がします。

川井 そうですね。周年事業を通して教育環境を整備するということはありませんが、こちらの意図としては、学内のまとまりとありますが、周年を祝うことによって愛知大学の一員としてのアイデンティティーを再確認するということも意識しています。どうしても人によって温度差があるので、

募金活動に関しても結構苦労しました。創立70周年ということで、卒業生は14万人以上になるので、同窓会が募金活動の中心的な担い手となり、その方々からの寄附が一番大きかったという気がします。

兼高 周年事業によって教職員がまとまる、ということはありませんでしょうか。

川井 その点はあると思います。お話を伺っていると、教育研究の改革と周年事業をリンクさせているという印象を持ちました。本学の場合は教育研究改革のための組織が別にありますので、基本的にはそれぞれで展開しています。教育研究の将来構想や国際化に対応した人材育成、地域連携といったテーマごとの部署や委員会が担当していま

すが、周年事業と直接リンクさせると仕事の範囲が極めて広がってしまうので、そこまではしなかったというところですね。

兼高 基本的な考え方としては、普段あまりやらないようなことを、周年事業によって10年ごとに行うということでしょうか。

川井 本学は10年ごとに周年事業を行ってきましたので、次の10年をどうするかという発想は当然あります。大きな教育環境の整備、特に建物や施設などに関わる新規のものを周年事業に組み込むこともありすが、基本的には教育事業の不断の努力を踏まえて、周年事業を続けていきます。

安藤 本学では2018年に学科・専攻を再編します。組織の変更や、先ほどお話しした「挑戦する知性奨学金」も、毎年行っている教育・研究の自己点検・評価の結果を受けて出てきたものです。それを1000周年のタイミングに行つたということですね。

川井 こういった周年事業は、どれくらいの間隔で展開していらっしゃいますか。

戸部 10年ごとですね。

安藤 本学も10年ごとですが、募金は90周年の時には行わず、80周年以来でした。80

周年から20年たち、職員も入れ替わり、当時の経験者がほとんど学内におりませんでした。

川井 なるほど。間が20年空くと、そうなるのですね。しかし、成城学園さんも東京女子大学さんも、100周年ということでだいぶいろいろな事業を展開なさいますね。

戸部 7年も前から委員会を作って始めたといっても、実は学園内でいろいろな改革の気運が高まって、ちょうど100周年に当たるのでこれを機に、という面もあったのではないかと思います。

兼高 リベラルアーツの見直しにしても国際化にしても、時代の要請だったわけですが、やはり100周年ということで決めたという印象はございますか。

戸部 100周年のタイミングで思い切つてやったというところもあります。教育の改革ということでは、変えなくていいことも絶対にあると思います。それが伝統というものですが、伝統の上に安住してはいけません。私の高校の先輩の言葉で「伝統とは、改革に改革を接ぎ木していくことだ」というのがあります。立ち止まったので

は終わってしまっています。常に変えていくことが生存のための最低条件です。

教育は、これまでに蓄積されたものを教えるという意味では保守的ですが、将来を見据えて、これからの世の中はこう変化するから、学生にはこういった知識を身に付けさせようという未来的な側面を持たねばなりません。そのバランスをうまく取りながら、変わるべきものと変えてはいけない



ものをマッチングさせて、教える内容を徐々に変化させていくのが教育改革ではと思います。

兼高 その大学が元々持っているビジョンを改めて見直して、それにのっとって、変えるべきものと変えないものをきちんと調整する。その契機としては、周年事業が非常に有効であるということです。

戸部 そうです、おっしゃるとおりです。

100周年の新しい奨学金制度で世界のトップ100大学に留学

安藤 本学の場合は、募金事業（VERA募金）活動を通して、100周年だからこそできたことがあります。例えば先ほどご説明した新奨学金制度として新渡戸稲造国際奨学金を設けました。世界トップ100の大学に留学する学生には、留学先の授業料や準備金、渡航費など、最大600万円を授与します。

川井 それはすごいですね。

兼高 いま、留学する学生が減っていますからね。

安藤 おかげさまで、マギル大学（カナダ）

に留学した学生をはじめ数名に、この奨学金を授与しています。これは、VERA募金にご支援くださった皆様のおかげです。

また、海外からの留学生と日本人学生と一緒に生活する国際寮としての桜寮も、募金からのご支援も含めて建設されました。

兼高 学生は、寮生活を敬遠しませんか。

安藤 本学では教育寮として位置付けています。現在、桜寮には170名の学生が二人部屋で生活しています。その他に100人規模の個室寮もキャンパスの中にあり、保護者にとっても安心頂けると考えています。

兼高 それは、学生募集にも有効ですか。

安藤 「知のかけはし入学試験」で入学した学生には、「挑戦する知性奨学金」の中に寮費も含まれますので、地方の受験生の獲得に有効だと思っています。

地域貢献を掲げる大学にとって

周年事業は地域との連携が非常に重要

兼高 愛知大学さんの周年事業も、まちづくりという愛知大学のコンセプトの一環でもあったわけですね。

川井 本学の創立には歴史的な事情があつて、戦前の上海に設立された東亜同文書院

という学校、ここは45年の歴史がありましたが、これを中心として、中国や台湾、朝鮮にあつた高等教育機関が終戦とともに日本に引き揚げてきて、それらの受け皿として愛知県豊橋市に愛知大学をつくりました。

設立当時、中部地方には法文系の大学がありませんでした。名古屋大学はあつたものの、その頃は理系の大学でした。そこで、国際人育成と地域への学問・文化の貢献という理念を掲げて愛知大学が開学したという経緯があります。

従つて、周年事業との関係では、地域との連携が非常に重要であり、「人・モノ・カネ」の全ての面で地域の協力なしには難しかっただろうと思います。先ほどご説明したように、名古屋キャンパスの第2期工事がさしまライブのまちびらきのタイミン

グと重なつたために、なおさら地域との結び付きを意識しました。

これは豊橋のほうも同様で、豊橋キャンパスのある東三河地域や三遠南信地域の連携の拠点として活動しております。

兼高 名古屋キャンパスのあるさしまライブ地区は、再開発なのですか。

川井 元々は名古屋市の所有地で、かつて「名古屋市で最後に残された開発地」と報道されたこともあります。10年くらい前に名古屋市が開発コンペを行い、本学も採択され、2012年に開校、ようやくまち全体が完成したのが2017年でした。それがちょうど、本学の70周年と重なつたわけで、非常にいいタイミングだったと思います。

戸部 まちづくりということでは、成城という街自体が成城学園によつて造られたと言えるかもしれません。成城学園が土地を確保し、それを売却して得た資金を学校づくりに活用しました。ですから、学園と街は共に発展してきたといえるでしょう。学園としては、これからも地元ともつといるような関係を築いていきたいと考えています。

安藤 先生方のお話はとても参考になりました。本学は地域の活性化に寄与し、また連携を強めるために2018年4月に国際社会学科にコミュニティ構想専攻を新しく設置します。この専攻では、まちづくりや

観光をテーマに自治体や企業などと連携し協働する実践的な学びを強化していきます。

**周年事業を機に建学の精神に立ち返り
それを現代の視点で見直して深化させる**

兼高 これから周年事業を立案・実施する上で、何か気を付けたほうがいい点はございますでしょうか。

川井 大学としての教育研究活動を周年事業の中に位置付けて展開することが多いと思います。ただ、本学の場合、もちろんそういうことも意識はしましたが、特に周年事業だからまったく新しいことを、ということとはなかったように思います。従来から継続してきた教育研究活動の成果と将来の課題を示し、一緒に考えるという位置付けでした。基本的には継続している活動があつて、その中で特に重要なトピック的なテーマがあれば周年事業と関連付けるというスタンスだったと思います。

周年事業のために新しい教育研究の事業を立案するということは特にないものの、周年事業に前後して新校舎や新学部の新設などが予定されている場合は、その中に位

置付けるということが当然あります。

一つの契機として周年事業を活用するということはあると思うので、できる範囲でおやりになればいいのではないのでしょうか。

戸部 そうですね、契機ですね。「100周年だから」というのが一つの合言葉のようになって、それで許されてしまうこともあります。

兼高 「挑戦する知性」に相当するような、100周年のキャッチフレーズはおつくりになりましたか。

戸部 特に新しいものをつくってはいませんが、「何々の人材を育てる」という言い方があります。大学がそういう人材を育てるのではなく、「育ちたい」という気持ちが生徒にあつて、それが大学という場に出会ったときに何か成果が生まれるのではないかと思います。育ちたいという積極的な気持ちを持った学生に来てもらいたいと考えています。それをキャッチフレーズにまよめるのは難しいですね。

兼高 教学のシステムを改革して育てたいと思つても、「育ちたい」という学生が来ないことには話は始まりません。

戸部 そう思います。これは周年事業と直接関係はありませんが、育ちたいと思つたら懸命にならなければいけないということ、を、あちこちで話しております。

安藤 100周年を機に建学の精神に立ち返り、それを現代の視点で見直して教育を深化させていくことが必要だと思います。

周年事業は、大学の活力になります。東京女子大学はいままでもこれからも、日本の女子教育をリードする存在であり続けたいと思います。

兼高 特にお二人の学長先生のお話を伺っていると、周年事業はいろいろなきっかけにはなるものの、やはり日ごろの教育が大それたということですね。

戸部 それが一番大事です。

安藤 周年事業を機に、その大学の良さを見せる。学生や教職員だけでなく、社会に対しても「見える化」をする、周年事業はそのよい機会だと思えます。

兼高 なるほど、そういう意義があるので。本日は、ありがとうございました。